

コレクション展III 「かわいい日本美術」開催のお知らせ

2024 Collection Exhibition III
‘Kawaii’
Japanese
Art

2024 コレクション展 III

かわいい
日本美術

9.14 SAT >>> 11.26 SUN

※10月21日(月)は展示替えのため休展
■ 開館時間 / 10:00 ~ 19:00 ※金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)
■ 会場 / 大分県立美術館 3階 コレクション展示室

福田平八郎《鶯と家鴨三匹》(部分) 1916(大正5)年頃

幸松春浦《清夜》(部分) 昭和前期頃

大分県立美術館では、9月14日(土)より2024年度 コレクション展III 「かわいい日本美術」を開催します。つきましては以下に展覧会概要をお知らせします。

開催概要

日常のコミュニケーションの中で“かわいい”という言葉が色々な場面で使われています。日本では古くから“かわいい”ものを愛でる独自の文化があり、日本語の“かわいい”には、様々なニュアンスが含まれています。

本展では、美術作品に表現された身近な犬や猫、鳥やリス、フクロウなどの小動物、愛らしい季節の草花、無邪気で微笑ましい子ども、“ゆるかわ(ゆるくてかわいい)”の僧・布袋さんや南画に描かれた人物、さらには着物や工芸作品のデザインまで、幅広い作品に注目します。可憐なもの、幼いもの、小さいもの、素朴なもの等々の“かわいい”をキーワードに、日本美術の新たな魅力を探ります。

展覧会のみどころ

見どころ1 動物がかわいい！

様々な作品に描かれる動物たち。ふわふわの毛並みやまんまるの瞳がとってもかわいい！幸松春浦(ゆきまつしゅんぽ)《清夜》(せいや)はほの暗い夜の情景の中で、リスが木の実を食べています。木の実を両手に抱えてこちらを見つめる様子のかわいらしさ、月明かりが照らす薄暗い様子が巧みに表されています。

幸松春浦 《清夜》(部分) 昭和前期頃





見どころ2 ちっちゃくてかわいい！

田能村竹田《泡茶新書三種》(ほうちやしんしょさんしゅ)は竹田が煎茶について論じた本の3冊セット。文庫本より小さく、このようなサイズの本は豆本、袖珍本(しゅうちんぼん)(袖の中に入るほど小さいことから)と呼ばれます。このうち《石山齋茶具図譜》(せきぜんさいちやぐずふ)はのちの煎茶関係の書物にも引用される、煎茶道具の図解が特徴です。本のサイズが小さいので、描かれている道具がミニチュアハウスのインテリアみたい！

田能村竹田 《泡茶新書三種》 1831年

見どころ3 ゆる～くてかわいい！

松花堂昭乗(しょうかどうしょうじょう)は江戸時代の僧で、書や絵も巧みにかいた人です。実は「松花堂弁当」の語源でもあります。そんな昭乗が描く絵はとってもゆるい雰囲気を持ち、見ている人を癒やしてくれます。《布袋図》は昭乗がよく描いた画題のひとつ。同じく僧で友人の江月宗玩(こうげつそうがん)が画賛を書いています。

松花堂昭乗 《布袋図》(部分) 江戸時代前期頃



展覧会名：コレクション展III 「かわいい日本美術」

会期：2024年9月14日(土)～11月26日(火)

休展日：10月21日(月)は展示替えのため休展

時間：10:00～19:00 ※金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

会場：大分県立美術館 3階 コレクション展示室

観覧料：一般300(250)円、大学生・高校生200(150)円

※()内は有料入場20名以上の団体料金

※中学生以下は無料

※大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料、TAKASAGO無料、UME団体料金

※高校生は土曜日に観覧する場合は無料

※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合は無料

※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料

※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください

※11/22～26は開催中の企画展半券提示で1枚につき1回無料

主催：公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館

関連イベント

びびコレクション展オープニングレクチャー

日時：2024年9月14日(土)14:00～15:00

学芸員によるギャラリートーク

日時：2024年9月29日(日)、10月13日(日)、11月3日(日)、11月17日(日)

各日14:00～15:00

※予約不要・要観覧券

※予定は変更になる可能性があります。最新情報は当館ホームページにてご確認ください。

★ [コレクション展 III 「かわいい日本美術」 チラシ](#)

関連イベントについては、大分県立美術館の公式ウェブサイトをご覧ください。

コレクション展III 「かわいい日本美術」 WEBサイト

同時開催の特集展示

大分竹工芸名品展

一此君礼賛(しくんらいさん)ー Vol.8

大分県立美術館のコレクションの中でも、竹工芸で初めて人間国宝となった本県出身の生野祥雲齋（1904-74）の作品を軸とした約300点からなる県内外の竹工芸作品は、質・量ともに国内最大級として知られています。

当館では、竹工芸を大分ならではの文化風土から生まれた主要な地域文化資源と位置付け、コレクション展における特集展示「大分竹工芸名品展一此君礼賛ー」をシリーズとして開催しています。

今年度のVol.8では、今年12月7日（土）から開催予定の「生誕120年・没後50年 生野祥雲齋展」に先駆けて、祥雲齋以降の作家を中心に、大分の竹工芸の歴史や変遷を当館コレクションの名品と共にご紹介します。

森上智 《舞》 1988(昭和63)年



豊かな海と芸術家たち

第43回「全国豊かな海づくり大会」の大分県での開催に合わせて、海に関する作品の特集展示を行います。

福田平八郎 《海魚》 1963年

『全国豊かな海づくり大会』とは・・・

水産資源の保護・管理と海や河川・湖沼の環境保全の大切さを広く国民に訴えるとともに、つくり育てる漁業の推進を通じて水産業の振興と発展を図ることを目的に毎年各地で開催されている国民的行事の1つです。この大会は昭和56年に大分県で第1回大会が開催され、2度目の開催です。



お問合せ：公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 大分県立美術館

学芸企画課（展覧会担当）柴崎

管理課広報担当 安東・山口

Tel 097-533-4500 E-mail:info@opam.jp